

Sakana AI × 防衛省：AIエージェントによる「インテリジェンス業務」の変革

2026年、Sakana AIは防衛省と「総合分析業務に必要なAI機能の調査・実証」契約を結結。

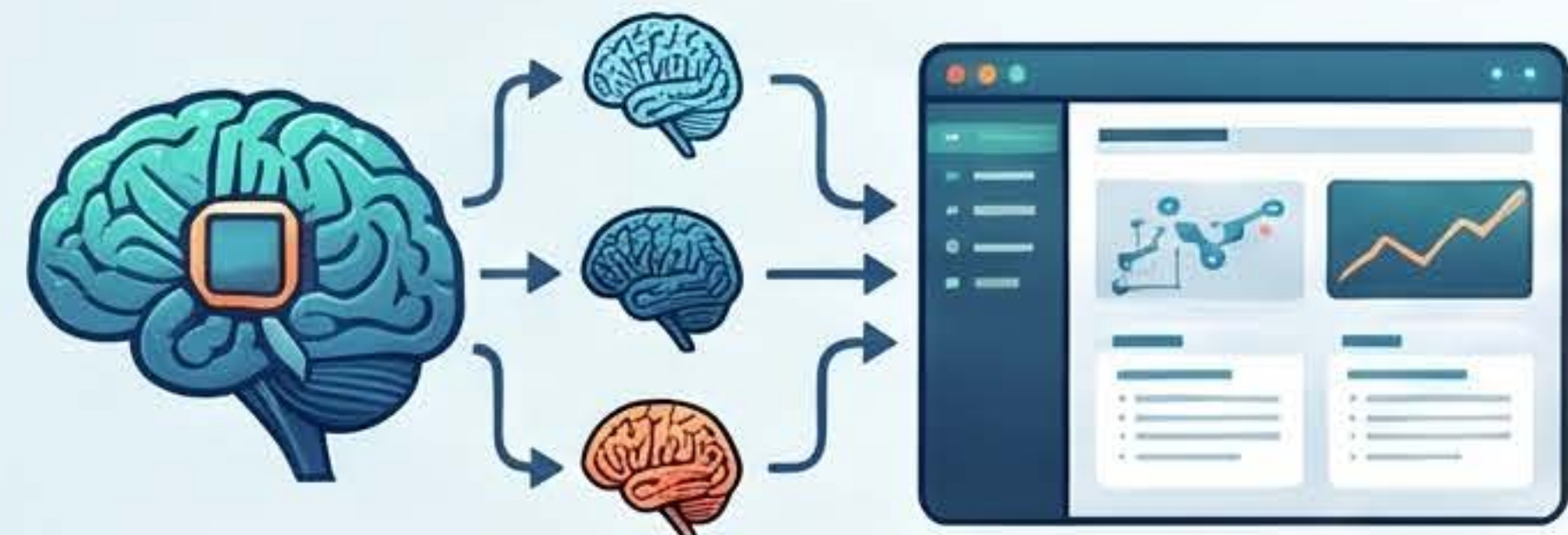
日本のAIスタートアップが情報分析（OSINT）に本格参入する重要な節目であり、「AI主権（ソブリンAI）」の確保が背景にある。

実証事業の核心 —— インテリジェンスの高度化

収集の効率化・分析能力の向上・体系的な管理
(3つの観点から情報分析を強化)



AIエージェント「Sakana Fugu」の活用



複数の大規模言語モデルを動的に制御し、高度な意思決定支援とレポート生成を自動化。

実証されたOSINT分析能力



Diver OSINT CTF 2026

5位

850チーム中

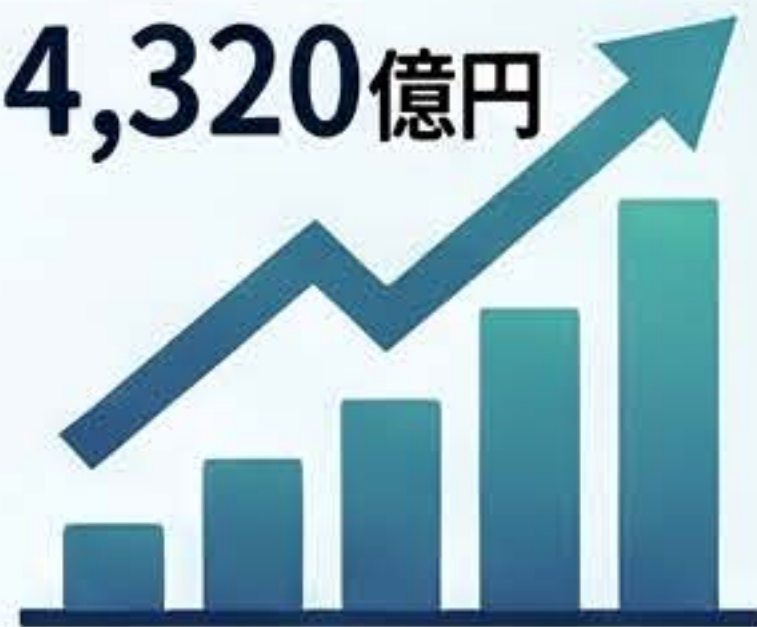


契約時期	案件名・対象領域	主な目的
2026年3月	指揮統制（C2）システムの高度化	部隊運用・センサー情報の統合高速化
2026年7月	総合分析業務（インテリジェンス）	国家レベルの政策決定を支える情報分析

戦略的意義 —— 「AI主権」と信頼の確立

国内最大級の企業価値

4,320億円



シリーズBで累計
約660億円調達



国産AIによる「ソブリンAI」の推進



外国製モデルへの依存を減らし、日本の安全保障環境に最適化したAI基盤を構築。

厳格な軍事利用倫理の遵守



自国民の監視



完全自律型
致死兵器



明確に否定

これらの関与を明確に否定。